



Women in Jazz Festival

女性ジャズフェスティバル

展示 2025.11.13 → 2026.4.19

黒人女性の文学とジャズ展

ーブラック・フェミニズムをたどる

国際学術シンポジウム 2025.11.29

音楽×ジェンダー平等 女性奏者の創造と挑戦

ーブルース、ジャズ、ポピュラー音楽まで

ブッククラブ 2025.12.1

中川ヨウ 音楽と生きて

ー時代・ジェンダーの動きと共に

コンサート&トーク 2026.3.3

大西順子×ヤマザキマリ

ー自由を奏で、世界を描く

早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)は、2025年10月に開館4周年を迎えました。村上春樹さんによる「文学や文化の風通しの良い国際的交流・交換の場に」という言葉のとおり、これまで作家や音楽家をお招きしたイベントを開催し、芸術文化を愛する人々が集う場となってきました。

2025年は、国連が「国際女性デー(International Women's Day)」を定めてから50周年を記念します。国際文学館では「ジャズとジェンダー」をテーマにした展示・国際シンポジウム・ブッククラブ・コンサートからなる「女性ジャズフェスティバル/Women in Jazz Festival」を開催します。

村上春樹文学をお好きな方であれば、作品中に登場する印象的なジャズの場面を思い浮かべることができるのではないのでしょうか。日本でもファンの多いジャズは、もともとはアフリカ系アメリカ人により生み出され、アメリカでは人種平等を求める歴史とも結びついてきました。そしていま、#MeToo運動を背景に、男性主導だったアメリカのジャズ界で、ジェンダー平等に向けた取り組みが進められています。

「女性ジャズフェスティバル」でジャズを楽しみながら、ジェンダーをめぐる社会課題についても一緒に考えてみませんか。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



展示

黒人女性の文学とジャズ展

ーブラック・フェミニズムをたどる

2025.11.13 THU → 2026.4.19 SUN 10:00~17:00

場 所: 早稲田大学国際文学館 2階展示室

休 館 日: 水曜日ほか(開館日はウェブサイトでご確認ください)

奴隷制時代から現代まで、黒人女性の芸術は、沈黙を破り、内なる魂(ソウル)に光をあて、自らの言葉で自己を定義するための力になってきました。本展示では、アメリカを中心とする黒人女性作家・ジャズ奏者の作品をご紹介します。小説や詩、歌や演奏から響く、豊かなブラック・フェミニズム思想に耳を傾けてみてください。特別展示「村上春樹さんのレコード棚より 女性たちのジャズ」では、村上さんによる名盤解説もお楽しみいただけます。



ブッククラブ

中川ヨウ 音楽と生きて

ー時代・ジェンダーの動きと共に

2025.12.1 MON 18:30-20:00(開場18:00)

場 所: 早稲田大学国際文学館 地下1階

入 場: 無料(事前申込制、申込多数の場合抽選)

2025年春より始動した「国際文学館ブッククラブ」。今回は音楽評論家/ジャズ研究者の中川ヨウさんをお迎えします。中川さんは母親を8歳の時に亡くし、音楽〜ジャズを聴き込むことで寂しさを埋めてきたそうです。音楽批評家を志した理由、男性ばかりだったジャズ・ジャーナリズムの中でどのように道を切り開いてきたのか、時代やジェンダーをめぐる価値観が変わるなか、ジャズの「いま」と「これから」についてどのようにお考えなのかなど、貴重なお話をうかがいます。

▶ 中川 ヨウ

ジャズを核に活動する、音楽評論家/ジャズ研究者。慶應義塾大学アート・センター【拡張するジャズ】公開研究会をホー
ムに、学生、一般のジャズ愛好家とジャズについての考察を続けている。洗足学園音楽大学名誉教授、デジタルハリウッ
ド大学客員教授、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン理事。著書に「ジャズに生きた女たち」(平凡社新書、2008年)など。





国際学術シンポジウム

音楽×ジェンダー平等

女性奏者の創造と挑戦

—ブルース、ジャズ、ポピュラー音楽まで—

2025. 11. 29 SAT 14:30-16:40(開場14:00)

場 所: 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館401教室

言 語: 日本語(マリー・ピュスカートの発表は英語ですが、日本語で解説します)

入 場: 無料(事前申込制、当日参加可)

日米の音楽界で女性たちはどんな困難に直面し、どんな芸術を生みだしてきたのか——。「音楽とジェンダー」をテーマに、日仏4名の研究者がブルース、ジャズ、ポピュラー・ミュージックにおける女性たちの挑戦と創造について、学生や一般向けに発表します。ジャズがお好きな方から、音楽やジェンダーの研究に興味をお持ちの方まで、どなたでもご参加いただけるイベントです。

【登壇者】

▷ 永富 真梨

関西大学社会学部メディア専攻准教授。専門はアメリカ文化越境史、ポピュラー音楽研究。主な著書に『クリティカルワード—ポピュラー音楽』(共編著、フィルムアート社、2023年)、『入門ポピュラー音楽の文化史—(戦後)日本を読み直す』(共編著、ミネルヴァ書房、2024年)、『カントリー—ミュージックの地殻変動—多様な物語り』(責任編集、河出書房新社、2024年)など。

▷ ウェルズ 恵子

詩、歌、物語の研究者。立命館大学特別任用教授。「声」や「音」と関係が深い文学と、文学が成り立つ環境としての文化についても広く研究。専門は英米文学・比較文化。おもな著書に、『フォークソングのアメリカ』(南雲堂、2004年)、『黒人霊歌は生きている』(岩波書店、2008年)、『魂をゆさぶる歌に出会う—アメリカ黒人文化のルーツへ』(岩波ジュニア新書、2014年)、『アメリカを歌で知る』(祥伝社新書、2016年)。近刊に『おとぎ話はなぜ残酷でハッピーエンドなのか』(岩波ジュニア新書、2024年)がある。『狼女物語』(編・解説、工作舎、2009年)で第一回亀井俊介賞受賞。

▷ マリー・ピュスカート

バンテオン・ソルボンヌ大学(パリ第一大学)社会学教授。労働、ジェンダー、芸術に関する質的調査が専門。西洋、北米、日本の芸術界における女性やノンバイナリーの人々が直面する困難、ジェンダーに基づく暴力についても研究している。主な著作に『女性ジャズミュージシャンの社会学—音楽性・女性性・周縁化』(中経千晴訳、青土社、2023年)、『Making Jazz in Contemporary Japan: A Passionate Search for Self-expression』(Routledge, 2024年)、『Gender-Based Violence in Arts and Culture: Perspectives on Education and Work』(共著、Open Book Publishers, 2025年)など。

▷ 佐久間 由梨

早稲田大学教育・総合科学学術院教授、国際文学館(村上春樹ライブラリー)副館長。専門はアフリカ系アメリカ人文学・文化、日米のジャズ文学、ジェンダー・フェミニズム研究。主な論考に『ブラック・ライヴズ・マター時代のジャズ—クリスチャンスコット・アトキンソン・アジュアとテリリン・キャリントンの即興実践』(『現代思想』10月臨時増刊号 Black Lives Matter) 2020年)、『ジャズとアフリカ系アメリカ人文学』(『文芸界』11月号、2022年)など。



コンサート&トーク

大西順子×ヤマザキマリ

—自由を奏で、世界を描く—

2026. 3. 3 TUE 18:30-20:00

場 所: 早稲田大学 大隈記念講堂 大講堂

入 場: クラウドファンディングお申し込みの方(学生は無料招待)

※申込方法等の詳細はWebサイト(QRコード)をご確認ください。

ジャズ・ピアニストの大西順子さんと、漫画家・文筆家のヤマザキマリさん。異なる分野で活躍する二人には、共通点があります。ともに1967年生まれ。1980年代にそれぞれアメリカとイタリアへ渡り、以来、創造性と即興性、そして強靱な精神力と体力が求められる厳しいジャズと漫画の世界で、人々の心を動かす作品を生み出してきました。「大西順子×ヤマザキマリ—自由を奏で、世界を描く」は、大西順子によるソロピアノ演奏と、続くお二人の対談からなるコンサート&トークイベントです。

▷ 大西 順子

ジャズ・ピアニスト。1967年京都生まれ。東京に育つ。1989年、パークリー音楽大学を卒業。ニューヨークで活動を開始。1993年のデビュー作『IWOV』でスイングジャーナル誌ジャズ・ディスク大賞などを受賞。94年に日本人として初めて自身のグループを率いてニューヨークの名門ジャズ・クラブ、ビレッジ・バンガードに出演し、世界的な注目を集める。2020年にスタートした作家・村上春樹の音楽イベント『MURAKAMI JAM』では、毎回音楽監督を務める。常に新たな挑戦でジャズに真摯に向き合い、これまで20枚以上のリーダー・アルバムを発表してきた日本人女性ジャズ・ピアニストを代表する存在である。

▷ ヤマザキ マリ

漫画家・文筆家・画家。日本女子大学 国際文化学部国際文化学科 特別招聘教授、東京造形大学客員教授。1967年東京生まれ。1984年にイタリアに渡り、フィレンツェの国立アカデミア美術学院で美術史を専攻。比較文学研究者のイタリア人との結婚を機にエジプト、シリア、ポルトガル、アメリカなどの国々に暮らす。2010年『テルマエ・ロマエ』でマンガ大賞2010受賞、第14回手塚治虫文化賞短編賞受賞。2015年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2017年イタリア共和国星勳章コメンツォーレ級章。2024年『プリニウス』(とり・みきと共著)第28回手塚治虫文化賞のマンガ大賞受賞。著書に『ヴィオラ母さん』『ムスコ物語』(歩きながら考える)『豚の向う側』『貧乏ピッツァ』など。現在、『続テルマエ・ロマエ』を集英社「少年ジャンプ+」で連載中。



Photo: ノゾヒロミチ

国際文学館(村上春樹ライブラリー)はクラウドファンディングに挑戦中です!

文学とジャズで世界をつなぐ 村上春樹ライブラリーの挑戦にご支援を

女性ジャズフェスティバルをはじめ、国際文学館の展示やイベントの開催・運営は皆様からのご寄付によって成り立っています。

今後も国際文学館がより充実した活動を行い、多くの方が本物の芸術に触れ、楽しんでいただく場を提供し続けるために、クラウドファンディングを立ち上げました。2026年3月3日のコンサート&トークイベントへのご招待をはじめ、クラウドファンディング限定の返礼品(オリジナルグッズや特別案内ツアーなど)をご用意しております。皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

支援募集期間: 2025年 11月10日(月)10時 → 2026年 1月31日(土)23時まで

<https://readyfor.jp/projects/wihl2025-2026>

WEBサイトにアクセスいただき、クレジットカード、銀行振込、コンビニ払いのいずれかでお支払いください。

クラウドファンディングに関するお問い合わせ先: wihl-info@list.waseda.jp

国際文学館 レディフォーで検索



早稲田大学 国際文学館
村上春樹ライブラリー
The Waseda International House of Literature
The Haruki Murakami Library



〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

✉ @waseda_wihl

[@waseda_wihl](https://www.waseda.jp/culture/wihl/)

www.waseda.jp/culture/wihl/